

佐野短期大学シラバス2013

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
医事コンピュータ I Computer Medical Practice I		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	演習		選択	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
PC操作に関わる科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
医療事務に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
古川 貴子		講義棟 2F	木・金・土（授業・会議時間以外）	授業中に指示します
授業の概要				
D P C に欠かせない I C D コーディングの基礎とともに①ICDコーディング - 10による疾病分類、②ICD - 9による処置を中心にPCの操作を学習する。				
授業の到達目標				
①ICD - 10による疾病分類を理解できるようにする。 ②ICD - 9CMによる処置に関するコーディングの知識を習得できるようにする。 ③病名以外の記載内容を理解し分類できるようにする。 ④ICDコーディング検定3級合格を目指すことができるようにする。				
授業の方法				
P C 操作を学習しながら、様々な疾患及び関連疾患の講義・演習問題を繰り返し、ICDコーディングの基礎を習得する。				
学習の成果				
①D P C 算定によるICDコーディングの必要性を理解することができる。 ②世界保健機構による疾病分類の知識を習得することができる。 ③症例に基づくコーディングの実践力を身につけることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス・ I C D コーディングとは （P C 操作について）			
第2回目	コードの構成とコーディングの手順			
第3回目	コーディングの手順と例題			
第4回目	注釈・略語・記号等の意味、相互参照・関連用語について			
第5回目	単一・複合・ダブル・多発病態コードについて			
第6回目	任意的追加コード、続発・後遺症コードについて			

第7回目	新生物コード化
第8回目	産科関連コード化
第9回目	新生児関連コード化
第10回目	症例に基づくコーディング（症例 1 ～10）
第11回目	症例に基づくコーディング（症例11～25）
第12回目	症例に基づくコーディング（症例26～40）
第13回目	外因コードについて
第14回目	まとめ
第15回目	まとめと試験
成績評価の方法と基準	
評価の領域	割合 評価の基準
授業参加態度	10% 授業に集中して取り組むことができる。
レポート	
調査報告書	
小テスト	20% 授業の進捗に合わせて随時確認テストを行い、理解度に応じて評価する。
中間・学期末試験	50% 学期末試験を実施し、授業の到達目標に掲げた項目の理解度に応じて評価する。
発表内容（態度含む）	
その他	20% 検定試験の結果により加点する。
教科書と参考図書	
I C D コーデシグ基本テキスト。配布資料。	
履修上の心得・ルール	
演習問題が中心となる。P C 操作がスムーズにできるよう基本を理解すること。 ICD コーディング検定を受検する場合は必ず履修すること。	